

## 2月14日：リスクへの懸念の中で閑散相場が続く

今週は専門家や証券各社は相場の見通しについて悲観的だった。個別の支持材料は無く、新型コロナウイルス（COVID-19）が依然として相場の重荷になった。

ホーチミン取引所のVN指数は0.08%安の937.45ポイントで金曜日の取引を終えた。

同指数は先週合計で0.35%の下落となった。

出来高は1億8870万株で売買代金にして3.4兆ドンであった。

今週も変わらずか、下落の動きが予想される。資金フローは少なく、投資家を強気にさせるような材料がないとMaybank Kim Eng証券のPhan Dung Khanh氏は語った。

COVID-19に対する懸念は世界経済への見通しに暗雲をもたらしている。

COVID-19ウイルスは多くの経済的、人的な損失をもたらすだろう。信用機関と信用格付け機関はアジア、中国、ベトナムの経済見通しを引き下げたとペトロベトナム証券のLe Duc Khanh氏は語った。

ベトナムの第1四半期GDP成長率は0.5-0.7%ほど下落すると思われる。経済刺激策と利下げが必要だが、それでも株式市場への資金流入は影響を受けると予想される。

1月には1.7兆ドンの買い越しだったが、外国人投資家は金曜日には1兆ドンほど売り越した。

2020年の上半期は株式市場は困難な状況にあり続けるだろう、そして基本的には940-980ポイントの範囲で上下をするだろうと予想した。いくつかのパフォーマンスの良い個別株に資金が集中するだろうとKhanh氏は語った。

SSI証券によると、COVID-19の発生を抜きにすると、世界の株式市場は米中の第一合意と資金フローから世界の株式市場は上昇をすると思われた。

1月の半ばまでは世界のファンドマネージャーは17か月高値の水準まで株式の投資比率を高めており非常に楽観的だった。新興市場への資金流入は旺盛でベトナム株にも買い越しの資金が流入していたと同証券は語った。

しかしながら、1月下旬から資金が流出し始めた。COVID-19 への懸念は東南アジア経済への見通しを劇的に引き下げ、ファンドマネージャーの投資方針を変更させた。

アジアの新興国は中国への経済とのつながりから資金の流入が大きく下落している、ベトナムを含むそれらの地域からの資金の流出は19週間ぶりの高水準に達している。

もしもウイルスの拡散が2月中に封じ込められれば、生産や需要への影響は限定的になり株式市場も反発すると思われる。

過去の数年を見ると、年初はベトナム株にとって好ましい期間で、その後の上昇を後押ししていた。2020年に関してはこの動きが無かったため、調整の時間が必要だと思われる。経済見通しは引き下げられ、COVID-19による打撃のため、第1四半期もしくは上半期は閑散相場が続くかもしれないと同社は予想した。

ポジティブなニュースとして、EU議会はEVFTAを批准した。ベトナムの国会で5月に承認される必要がある。

計画投資省によると、2025年までにEVFTAとEVIPAはベトナムのGDPを4.6%EUへの輸出を42.7%引き上げると予想されている。ヨーロッパ議会は2035年までにEUのGDPを295億ドル、ベトナムへの輸出を29%引き上げると予想している。

バオベト証券によると、EVFTAの発行は経済を中長期的の押し上げる。99%以上の関税が撤廃されるというロードマップによると、縫製、靴、農業、漁業、木工品などを含む製品のEUへの輸出にとって好ましい条件であるとのことだった。

また、EVFTAに加入することで、外国人投資家の投資を惹き付けることにもなる。EUからのビジネス投資の増加も見込め、国内経済を加速させると期待できる。



## ディスクレイマー

このニュースは、投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。このニュースは、信頼できると考えられる FiinPro という情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。このニュースは、Japan Securities Incorporated (JSI) から直接提供するという方法でのみ配布いたしております。このニュースのいかなる部分も一切の権利は JSI に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。